

景気動向調査の概要について【2026 年4～6月】

令和 8 年 7 月 28 日
富山商工会議所

約 6 割が「足踏み状態」と回答、「後退」の見方も2割を超え、先行きへの警戒感が強まる

景気の現況は、「緩やかに回復している」が13.1%と前期比 4.8 ポイント減少し、最も多い「足踏み状態」は60.9%と前期比 10.5 ポイント減少、「緩やかに後退している」は17.4%と前期比 10.3 ポイント増加した。依然として約 6 割が「足踏み状態」と回答し、「緩やかに後退している」、「後退している」を合わせると全体の 2 割を超える水準まで増加しており、景気の先行きに対する警戒感が強まる状況となった。

今期の業況判断 DI は、11.5ポイント増加の 4.4(前期△7.1)、来期の見通し DI は 0.0 となり、直近で改善したものの、先行きについては回復が足踏みし、慎重な見方が広がる状況を示した。

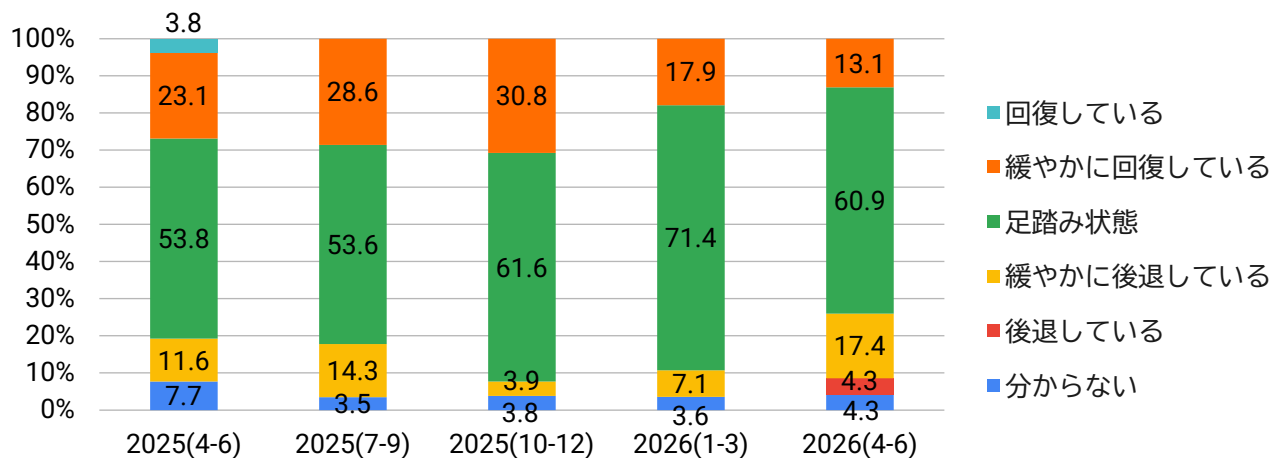
製造業は電気機械で AI・半導体需要の増大や EV 等の新市場向けが好調だが、中国向け家電機器は低迷。紙関連は中東情勢による前倒し需要や省力化ニーズで包装分野が好調な一方、地域経済の低迷やデジタル化、値上げによる買い控えにより段ボールや洋紙等が不調。

非製造業では、大型店で富裕層向け高額品や観光客増による土産品が好調。一方、一般層の節約志向による衣料品が不調。都市型ホテルはアルペンルートの観光客増による宿泊が好調となったが、レストランの商品値上げで集客が減少した。リース業は PC の更新や車輛需要が好調となったが、病院等の赤字で設備投資が抑制を受け医療機器が不調。不動産は商業用賃貸が動く反面、資材高騰や金利上昇で住宅用地の需要が減退している。

今回、原材料費やエネルギー価格、人件費等のコスト上昇分の価格転嫁に対する課題を聞いた。

製造業では、価格交渉に伴うタイムラグの発生、激しい他社との競合、薬価等の制約による価格転嫁の難しさが課題となり、非製造業では、発注者の理解不足や需給相場主導で経費転嫁できない構造が課題となっている。また、小売業やサービス業では、値上げによる購買心理の低下や深刻な人手不足も懸念されている。

1. 景気の現状について(四半期ごとの推移)



2. 前期との比較と来期の見通し

		2025年 4 - 6 月期	2025年 7 - 9 月期	2025年10-12月期	2026年 1 - 3 月期	2026年 4 - 6 月期	2026年 7 - 9 月期
前期比	好転	15.4	14.3	19.2	14.3	17.4	-
	不変	69.2	64.3	69.2	64.3	69.6	-
	悪化	15.4	21.4	11.5	21.4	13.0	-
	DI	0	△ 7	7.7	△ 7.1	4.4	-
来期の見通し	好転	30.8	23.1	21.4	11.5	14.3	17.4
	不変	57.7	69.2	64.3	84.6	71.4	65.2
	悪化	11.5	7.7	14.3	3.9	14.3	17.4
	DI	19.3	15.4	7.1	7.6	0.0	0.0

<実施要領>

- 調査期間 2026 年 6 月 23 日～2026 年 7 月 7 日
- 調査対象 当所景気モニター企業 28 社
- 調査方法 調査票を郵送し FAX 又は Google Form で回収
- 有効回答数 23 社(回収率 82.1%)